

**SIGNAL LINE DRIVING CIRCUIT FOR LIQUID CRYSTAL DISPLAY**

Patent Number: JP11095729  
Publication date: 1999-04-09  
Inventor(s): TAGUMA MICHIO; KANO SUSUMU  
Applicant(s): TEXAS INSTR JAPAN LTD  
Requested Patent: ☐ JP11095729  
Application Number: JP19970276526 19970924  
Priority Number(s):  
IPC Classification: G09G3/36; G02F1/133  
EC Classification:  
Equivalents:

---

**Abstract**

---

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To make a signal line driving circuit possible to perform dot inversion drive of a common constant drive method by a low power consumption system, in a TFT liquid crystal display. **SOLUTION:** A drive part equivalent to adjacent two channels (columns) is constituted of a pair of registers 10L, 10R, a pair of first data latch circuits 12L, 12R, a pair of first switch circuits 14L, 14R, a pair of second data latch circuits 16L, 16R, a pair of level shifters 18L, 18R, a pair of DA converters 20L, 20R, a pair of output amplifiers 22L, 22R, a pair of second switch circuits 24L, 24R and a pair of output pads 26L, 26R. Respectively corresponding signal lines (not shown in figure) in a liquid crystal panel are connected to the output pads 26L, 26R. An opening/closing switch 30 is connected between the output pads 26L, 26R. The opening/closing switch 30 is closed temporarily when a polarity of alternation is inverted to short-circuit adjacent signal lines each other.

---

Data supplied from the esp@cenet database - I2

特開平11-95729

(43)公開日 平成11年(1999)4月9日

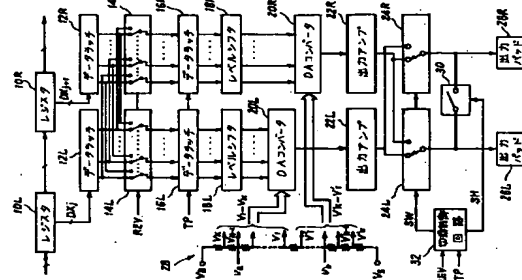
(51)Int.Cl.*	識別記号	F 1	審査請求	未請求	請求項の数 6	F D (全 14 頁)
G 0 9 G 3/36	5 5 0	G 0 9 G 3/36				
G 0 2 F 1/133		G 0 2 F 1/133	5 5 0			

(21) 出願番号	特願平9-276526	(71) 出願人	390020248
(22) 出願日	平成9年(1997)9月24日		
			日本テキサス・インスツルメンツ株式会社 東京都港区北青山3丁目6番12号 青山高 士ビル
		(72) 発明者	田原 道雄
			埼玉県川谷市南3丁目18番36号 日本テ キサス・インスツルメンツ株式会社内
		(72) 発明者	加納 行
			埼玉県川谷市南3丁目18番36号 日本テ キサス・インスツルメンツ株式会社内
		(74) 代理人	伊藤士 佐々木 麗季

(54) 【発明の名称】 液晶ディスプレイ用信号線駆動回路

【課題】 TFD型の液晶ディスプレイにおいて低消費電力方式でコモン一定駆動法のドット反転駆動を行えるようにする。

【解決手段】 隣合う2つのチャネル(列)分の駆動部は、一对のレジスタ10 L、10 R、一对の第1データラッチ回路12 L、12 R、一对の第1切込回路14 L、14 R、一对の第2データラッチ回路16 L、16 R、一对のレベルシフト18 L、18 R、一对のDAC出力ampa 20 L、20 R、一对の出力アンプ22 L、22 R、一对の第3切込回路24 L、24 Rおよび一对の出力バッド26 L、26 Rから構成される。出力バッド26 L、26 Rには液晶パネル内の各対応する信号線(図示せず)が接続される。出力バッド26 L、26 R間には開閉スイッチ30が接続される。この開閉スイッチ30は、交流化の極性反転時に一時的に閉じて、隣合う信号線同士を短絡させる。



(2)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 マトリクス状に配置された複数の画素電極と一つの対向電極との間に液晶が充填され、各々の前記画素電極は各対向電極に接続した導線を通じて各対向電極と電気的に電気的に接続するとともに、前記導線を通じて信号端子の側面端子が各対向電極に電気的に接続され、前記対向電極には所定の対向電極電圧が印加され、各々の前記画素電極には各対向電極電圧が印加される度毎に所望の表示階調に対応した電圧レベルを有し、かつ前記対向電極電圧に対して相対的に負の極性を有する階調電圧が前記信号線に供給された場合は負の極性または負の極性を有する階調電圧を介して印加されるとともに前記階調トランジスタブレイ用の信号線駆動回路において

奇数列の各番号線には正極性の降調電圧を供給すると同時に偶数列の各番号線には負極性の降調電圧を供給する。第1の動作と、奇数列の各番号線には負極性の降調電圧を供給すると同時に偶数列の各番号線には正極性の降調電圧を供給する第2の動作とを所定の周期で交互に繰り返させる切替手段と、

前記第1の動作と前記第2の動作との間の切換時に所定のタイミングで任意の奇数列および偶数列の信号線同士を一時的に短絡させる短絡手段とを有する液晶ディスプレイ用信号線駆動回路。

【請求項2】 前記短絡手段は、各線路一対の信号線の間に接続されたスイッチ手段と、定常時は前記スイッチ手段を閉状態とし、前記切換時に各信号線に対する閉状態とするスイッチ制御手段とを有することを特徴とする。

【請求項3】 前記短絡手段は、全ての場合に信号線の引込線に接続されたスイッチ手段と、定常時には前記スイッチ手段を開状態とし、前記切換時には各信号線に対する前記スイッチ手段を閉状態とする信号が中断する期間だけ前記スイッチ手段を閉状態とするスイッチ制御手段とを有することを特徴とする請求項1に記載の信号線駆動回路。

【請求項1】 前記短絡手段は、前記スイッチ手段が開状態にあるときに、前記対向電極電圧にほぼ等しい電圧を与える電圧源に各々の信号線を電気的に接続させる接続手段を有することを特徴とする請求項1ないし3のいずれかに記載の層層線駆動回路。

【請求項5】 前記切替手段は、前記ゲート線が線順次走査方式で駆動されるライン周期またはその整数倍の周期で前記第1の動作と前記第2の動作とを交互に繰り返させるとともに、各々の前記画面素子電極に前記階調電圧が印加されるフレーム周期で前記第1の動作と前記第2の動作とを交互に繰り返させる請求項1ないし4のいずれかの一の電極の階度線駆動回路。

【請求項6】マトリクス状に配置された複数の画素電極と一つの対向電極との間に液晶が充填され、各々の前

記画面電極は各対応する薄膜トランジスタを介して各対応する信号線に電気的に接続されるとともに、前記薄膜トランジスタの制御端子が各対応するゲート線に電気的に接続された液晶パネルと、

前記ゲート線を線順次走査で順番に活性化するゲート線駆動手段と、  
前記対向電極に一定の対向電極電圧を印加する手段と、

各々の前記ゲート線が活性化される毎度毎に該当する前記画面素子に対して所望の表示階調に対応した電圧レベルを有し、かつ前記対向電極電圧に対して相対的に正の極性または負の極性を有する階調電圧を前記信号線を介して印加する階層駆動手段と、

前記奇数信号線駆動手段が奇数列の名信号線には正極性の降調電圧を供給すると同時に偶数列の名信号線には負極性の降調電圧を供給する第1の動作と、前記奇数信号線駆動手段が奇数列の名信号線には負極性の降調電圧を供給すると同時に偶数列の名信号線には正極性の降調電圧を供給する第2の動作とを所定の周期で交互に繰り返させる切換手段と、

前記第1の動作と前記第2の動作との間の切換時に所定のタイミングで任意の奇数列および偶数列の信号線同士を一時的に短絡させる短絡手段とを有する液晶表示装置。

【発明の詳細な説明】

**[0010]**

【発明の属する技術分野】本発明は、多倍調表示を行う液晶ディスプレイの信号線を駆動する駆動回路に関する。

[0020]

【従来の技術】液晶ディスプレイ（Liquid Crystal Dis-  
play）の代表的なものとして、縦横トランジスタ（TF  
T）型の液晶ディスプレイ（TF-T-LCD）がある。  
（0030）図8に、アクティブマトリクス方式のフル  
カラーTF-T-LCDの構成を模式的に示す。この種の  
TF-T-LCDは、数本のゲート線Y<sub>1</sub>、Y<sub>2</sub>…と複数  
本の信号線X<sub>1</sub>、X<sub>2</sub>…とをマトリクス状に交差配置し、  
各交差点の画素に横素に横線トランジスタT<sub>FT</sub>を配置したT  
FT液晶パネル100と、この液晶パネル100のゲー  
ト線Y<sub>1</sub>、Y<sub>2</sub>…を駆動するための並列接続されたゲー  
トドライバG<sub>1</sub>、G<sub>2</sub>…と、液晶パネル100の信号線X  
<sub>1</sub>、X<sub>2</sub>…を駆動するための並列接続された信号線（ソー  
ス）ドライバS<sub>1</sub>、S<sub>2</sub>…と、各画素を制御するコン  
トローラ102と、表示すべき画像信号に対して所要の  
（多倍処理を行う画像信号処理回路104と、フルカラー  
（色相）再生回路106と）から構成されている。  
（倍周電圧発生回路108と）から構成されている。

【0040】画像信号処理回路104は、各画像の表示の階調を表すディジタルの画像データDXを各信号線ドライバS1、S2、…に供給する。たとえば64階調の場合、R、G、Bの各画像につき6ビットの画像データD

Xが画像信号処理回路104より各信号線ドライバS1, S2, …に与えられる。コントローラ102は、水平同期信号HSおよび垂直同期信号VSに同期した画素の制御信号またはタイミング信号を各ゲート線ドライバG1, G2, …および各信号線ドライバS1, S2, …に供給する。階調電圧発生回路106は、液晶パネル100のV(電圧) - T(透過率)特性に基づいて表示の多階調に対応した電圧レベルをそれぞれ有する多段階の階調電圧を各信号線ドライバにそれぞれ供給する。

[0050] 図9に、液晶パネル100の典型的な構成を示す。2枚のガラス基板110, 112の間に液晶114が封入または充填されている。一方のガラス基板110の内側面において、各ゲート線Yi(図示せず)と各信号線Xj(図示せず)との交差点位置付近に透明導電膜からなる1個の画素電極P1, jと1個の薄膜トランジスタT1, jが形成されており、画素電極P1, jはT1, jを介して信号線Xiに接続され、T1, jはゲート電極Tgがゲート線Yiに接続されている。他方のガラス基板112の内側面にはR(赤)、G(緑)、B(青)のカラータンタル115を介して透明導電膜からなる対向電極116が一面に形成されている。両ガラス基板110, 112の外側面にはそれぞれ偏光軸を互いに平行または直交させるようにして偏光板118, 120が設けられている。

[0060] なお、図9において、Tsはソース電極、Tdはドレイン電極、124は半導体層、126は保護膜、128はゲート絶縁膜、130はブラックマトリクスである。

[0070] 図10に、液晶パネル100内の回路構成を示す。各画素電極P1, jと対向電極116と両者の間に挟まれた液晶114によって1画素分の信号容量Csが構成される。ゲート線Y1, Y2, …は、ゲート線ドライバG1, G2, …により1フレーム期間内に通常は線順次走査で1行ずつ選択されてアクティブ状態に駆動される。

[0080] いま、1行のゲート線Yiが駆動されると、このゲート線Yiに接続されているi行の全ての薄膜トランジスタT1, i, T2, i, …がオンする。これと同様に、信号線ドライバS1, S2, …よりi行上の全ての画素に対するアナログの階調電圧がそれぞれ出力され、これらの階調電圧は信号線X1, X2, …およびオン状態の薄膜トランジスタT1, i, T2, i, …を介してそれぞれ対応する画素電極P1, i, P2, i, …に印加される。この後、次の(1+i)行において、ゲート線Y(i+1)が選択され、上記と同様の動作が行われる。1行においては、薄膜トランジスタT1, i, T2, i, …がオフ状態になり、各電極P1, i, P2, i, …の階調電圧は逃げ道を失い、各電極P1, i, P2, i, …の階調電圧は次の選択時間まで保持される。

[0090] このようにして、各画素電極には1フレ-

ーム間で階調電圧が印加されるのであるが、液晶ディスプレイでは液晶分子の劣化防止のため、液晶に電圧が交差の形態で印加されなくてはならない。TFT-LCDにおいて、液晶に交流電圧を印加する方法は、いわゆるコモン一定駆動法とコモン反転駆動法がある。

[0100] コモン一定駆動法は、図11に示すように、対向電極の電圧を一定レベルに固定したまま画素電極に対向電極電圧(一定値)に対して正の電圧を有する電圧と負の電圧を有する電圧を交互に印加する。

[0110] コモン反転駆動法は、図12に示すように、対向電極の電圧を高レベルと低レベルとの間で反転させながら画素電極に對向電極電圧に対して正の電圧を有する電圧と負の電圧を有する電圧を交互に印加する。この場合、対向電極の電圧が高レベルの時に画素電極にはこの高レベルを基準として負の電圧が印加され、対向電極の電圧が低レベルの時に画素電極にはこの低レベルを基準として正の電圧が印加されることになる。

[0120] コモン反転駆動法は、画素電極の電圧幅がコモン一定駆動法の場合と比べて1/2で済むので低電圧ドライブが使えるという利点はあるが、大容量の対向電極を交流駆動するために消費電力が多いうえ、X方向でのドット反転が行えず、表示品質の点でも劣る欠点がある。反対に、コモン一定駆動法は、低電圧ドライブを使えない反面、コモン反転駆動法よりも消費電力が少なく、またY方向だけでなくX方向でのドット反転も可能であり、表示品質に優れている。このようなことから、特に大画面のTFT-LCDではコモン一定駆動法が適していると考えられている。

[0130] 図13に、完全ドット反転のパターンを示す。図示のように、フレームFが切り替わる度毎に(Fn, F(n+1)、液晶パネル100内の各画素に書き込まれる階調電圧の極性が交互に反転する。そして、Y方向で1ライン毎に各画素の極性が反転するとともに、X方向でも1画素毎に極性が反転する。

[0140] コモン反転駆動法では、対向電極のレベルをフレーム周期およびライン周期に反転させることで、フレーム周期およびライン周期(Y方向)で各画素における階調電圧の極性を反転させることができる。しかし、一時点においては、対向電極電圧に対して正極性もしくは負極性いずれか一方の極性でしか信号線を駆動することができない。このため、同時にオン状態となる1行分の画素に正極性もしくは負極性いずれか一方の極性でしか階調電圧を印加できず、X方向で1画素毎に階調電圧の極性を反転させることはできない。

[0150] これに対して、コモン一定駆動法では、任意の時点において対向電極電圧からみて正極性および負極性の階調電圧を同時に選択することができるため、図13に示すように、液晶パネル100内の全画面、X方向で1フレーム周期およびY方向だけでなく、X方向でも1

画素毎に極性を交互に反転させることが可能である。このように、隣合う信号線のない画素電極で階調電圧の極性が反転することで、帯域時に対向電極等で流れる電流が隣同士で打ち消し合い、これによって表示品質の低下が抑えられる。

[0160] [発明が解決しようとする課題] 上記のようなコモン一定駆動法において完全ドット反転を行う場合、各信号線Xi上の駆動(階調)電圧は、1水平走査期間中に図11と同様の波形で極性が交互に反転する。この場合、信号線ドライバSは、水平走査期間の切り替わり時に各信号線Xjを対向電極電圧を基準(中心)として一方の極性の階調電圧から他方の極性の階調電圧へ振るようによりして駆動する。

[0170] このような信号線Xi上の電圧スイング幅はこの信号線Xi上(Y方向)で相前後する(隣合う)画素の表示階調の和に比例する。したがって、たとえば、相前後する画素のいずれも最大表示階調を有する場合には、正極性(または負極性)の最大階調電圧から負極性(または正極性)の最大階調電圧へ信号線Xi上の電圧をフルスイングしなければならない。このため、信号線ドライバSは大きな駆動能力を持たなくてはならない。電圧を多量に消費することになる。

[0180] 今後、液晶表示装置はますます低消費電力化を求められ、その中でも、信号線ドライバに対する低消費電力化の要求はますます強くかつていく。

[0190] 本発明は、かかる従来技術の問題点に鑑み、なされたもので、低消費電力方式でコモン一定駆動法のドット反転駆動を行えるようにした液晶ディスプレイ用の信号線駆動回路を提供することを目的とする。

[0200] さらに、本発明は、コモン一定駆動法のドット反転駆動における低消費電力化を簡易な仕掛けで実現する液晶ディスプレイ用の信号線駆動回路を提供することを目的とする。

[0210]

[課題を解決するための手段] 上記の目的を達成するため、本発明は、マトリクス状に配置された複数の画素電極と1つの対向電極との間に液晶が充填され、各々の画素電極は各対応する薄膜トランジスタを介して各対応する信号線に電気的に接続されるとともに、前記薄膜トランジスタの制御端子が各対応するゲート線に電気的に接続され、かつ前記対向電極電圧に所定の対向電極電圧が印加される度毎に所定の表示階調に対応した電圧レベルを有し、かつ前記対向電極電圧に対して相対的に正極性または負極性の階調電圧が前記信号線および前記薄膜トランジスタを介して印加されるように構成され、各々の信号線には正極性の階調電圧を供給すると同時に偶数列の各信号線には負極性の階調電圧を供給する第2の動作とを所定の周期で交互に繰り返す切替手段と、前記第1の動作と前記第2の動作との間の切替時に

する第1の動作と、奇数列の各信号線には負極性の階調電圧を供給すると同時に偶数列の各信号線には正極性の階調電圧を供給する第2の動作とを所定の周期で交互に繰り返す切替手段と、前記第1の動作と前記第2の動作との間の切替時に所定のタイミングで任意の奇数列および偶数列の信号線同士を一時的に短絡させる短絡手段とを有する。

[0220] 本発明の好ましい一実施形態として、前記短絡手段は、各信号線Xjの信号線間に接続されたスイッチ手段と、定常時は前記スイッチ手段を開状態とし、前記切替時に各信号線に対する階調電圧の供給が中断する期間だけ前記スイッチ手段を開状態とするスイッチ制御手段とを有する。

[0230] あるいは、別の実施形態として、前記短絡手段は、全ての隣合う信号線間に接続されたスイッチ手段と、定常時は前記スイッチ手段を開状態とし、前記切替時に各信号線に対する階調電圧の供給が中断する期間だけ前記スイッチ手段を開状態とするスイッチ制御手段とを有する。

[0240] 他の実施形態として、前記短絡手段は、前記スイッチ手段が閉状態になっている期間中に、前記対向電極電圧には等しい電圧を与え電圧源に各々の信号線を電気的に接続させる短絡手段を有する。

[0250] また、本発明の好ましい一実施形態として、前記切替手段は、前記ゲート線が線順次走査で駆動されるライン周期またはその整数倍の周期で前記第1の動作と前記第2の動作とを交互に繰り返されるもので、各々の前記画素電極に前記階調電圧が印加されるフレーム周期で前記第1の動作と前記第2の動作とを交互に繰り返させる。

[0260] また、本発明の液晶表示装置は、マトリクス状に配置された複数の画素電極と1つの対向電極との間に液晶が充填され、各々の前記画素電極は各対応する薄膜トランジスタを介して各対応する信号線に電気的に接続されるとともに、前記薄膜トランジスタの制御端子が各対応するゲート線に電気的に接続された液晶パネルと、前記対向電極に一定の対向電極電圧を印加する手段と、前記ゲート線を線順次走査で順次活性化されるゲート線駆動手段と、各々の前記ゲート線が活性化される度に該当する前記画素電極に対して所定の表示階調に対応した電圧レベルを有し、かつ前記対向電極電圧に所定の対向電極電圧を介して印加する信号線駆動手段と、前記信号線が奇数列の各信号線には正極性の階調電圧を供給すると同時に偶数列の各信号線には負極性の階調電圧を供給する第2の動作とを所定の周期で交互に繰り返す切替手段と、前記第1の動作と前記第2の動作との間の切替時に

所定のタイミングで任意の奇数列および偶数列の信号線同士を一時的に短絡させる短絡手段とを有する。

【0270】

【発明の実施例の態様】以下、図1～図7を参照して本発明の実施例を説明する。

【0280】図1は、本発明の一実施例による信号線ドライバの要部の回路構成を示し、より詳細には各場合の2つのチャネル分の構成を示す。この信号線ドライバは、たとえば図8に示したアクティブマトリクス方式のフルカラーTFT-LCDに用いられてよい。

なお、図示の場合2つのチャネル分の駆動部は、図8に示す液晶パネル100の場合第1列および第(j+1)列の信号線Xi、Xi+1を駆動するものとする。

【0290】図1において、各場合2つのチャネル分の駆動部は、一対のレジスタ10L、10R、一対の第1データラッチ回路12L、12R、一対の第1切換回路14L、14R、一対の第2データラッチ回路16L、16R、一対のレベルシフト18L、18R、一対のDAコンバータ20L、20R、一対の出力アンプ22L、22R、一対の第2切換回路24L、24Rおよび一対の出力バッファ26L、26Rから構成されている。

【0300】左側および右側のレジスタ10L、10Rは、所定の周期たとえば1ライン（水平走査期間）の周期で、画像信号処理回路104（図8）からの各対応するチャネルに割り当てられたい1画素分の画像データDXi、DXi+1をそれぞれ取り込む。そして、所定のタイミングでレジスタ10L、10Rよりそれぞれ1画素分の画像データDXi、DXi+1がそれぞれ左側および右側の第1データラッチ回路12L、12Rにラッチされるようになっている。

【0310】左側の第1データラッチ回路12Lの出力端子は、各ビット毎に、左側の第1切換回路14Lの一方（左側）の入力端子に接続されるとともに、右側の第1切換回路14Rの他方（右側）の入力端子に接続されている。右側の第1データラッチ回路12Rの出力端子は、各ビット毎に、右側の第1切換回路14Rの一方（左側）の入力端子に接続されるとともに左側の第1切換回路14Lの他方（右側）の入力端子に接続されている。

【0320】左側および右側の第1切換回路14L、14Rは、コンローラ102（図8）からの交流化信号または極性切換信号REVにより、たとえば1ライン周期で（1水平走査期間毎に）、一方（左側）の入力端子と他方（右側）の入力端子とに交互に切り換えられる。左側および右側の第1切換回路14L、14Rの出力端子は、それぞれ左側および右側の第2データラッチ回路16L、16Rの出力端子に接続されている。

【0330】左側および右側の第2データラッチ回路16L、16Rは、交流化信号REVに同期したコントローラ102からの奇数列および偶数列の信号線Xi、Xi+1の信号をそれぞれ取り込む。そして、所定のタイミングでレジスタ10L、10Rよりそれぞれ1画素分の画像データDXi、DXi+1をそれぞれ左側および右側の第2データラッチ回路16L、16Rの出力端子に接続されるとともに、右側の第2データラッチ回路16Rの出力端子は、左側の第2データラッチ回路16Lの出力端子に接続される。

ーラ102からのデータ・ラッチ制御信号TPにより1水平走査期間置きタイミングで左側および右側の第1切換回路14L、14Rをそれぞれ左側の第1データラッチ回路12Lもしくは右側の第1データラッチ回路12Rのいずれかにより1画素分の画像データを取り込むようになっている。左側および右側の第2データラッチ回路16L、16Rの出力端子は、それぞれ左側および右側のレベルシフト18L、18Rを介して左側および右側のDAコンバータ20L、20Rの入力端子に接続されている。

【0340】レベルシフト18L、18Rは、DAコンバータ20L、20R内の回路素子が共通一定駆動法による正極性と負極性の双方にわたる降調電圧を捉えるように、画像データの論理電圧（たとえば5V）を高い電圧（たとえば10V）に変換する。

【0350】左側のDAコンバータ20Lには、降調電圧発生回路28より正極性の全て（K個）の降調電圧V1～VKが供給される。一方、右側のDAコンバータ20Rには、降調電圧発生回路28より負極性の全て（K個）の降調電圧V'K～V'1が供給される。

【0360】降調電圧発生回路28は、たとえば抵抗分圧回路からなり、液晶パネル100のV-T特性にしたがって各表示降調に対応した電圧レベルを有する各降調電圧が得られるように適当な箇所の接続点（ノード）に補正用の基準電圧Vが供給されている。

【0370】たとえば、コモン一定駆動法において、対向電極の電圧VCOMを5ボルトに固定し、各画素電極に正極性の降調電圧（5～10ボルト）および負極性の降調電圧（5～0ボルト）を交互に印加する場合、正極性の最大降調電圧VKは10ボルトに最も近い値に設定され、負極性の最小降調電圧V'1は5ボルト付近に設定される。

【0380】左側のDAコンバータ20Lは、左側レベルシフト18Lより入力した1画素分の画像データをデコードし、その画像データの各表示降調に対応した電圧レベルを有する正極性の降調電圧Vxを選択して出力するように構成されている。一方、右側のDAコンバータ20Rは、右側レベルシフト18Rより入力した1画素分の画像データをデコードし、その画像データの各表示降調に対応した電圧レベルを有する負極性の降調電圧V'yを選択して出力するように構成されている。左側および右側のDAコンバータ20L、20Rの出力端子は、それぞれ左側および右側の出力アンプ22L、22Rの入力端子に接続されている。

【0390】左側の出力アンプ22Lは、インバーダス変換機能と有する演算増幅器の電圧フォロアからなり、正極性電圧の範囲内でシンク状態で動作するように構成されている。この左側の出力アンプ22Lの出力端子は、左側の第2切換回路24Lの一方（左側）の入力端子に接続されるとともに、右側の第2切換回路24Rの他方（右側）の入力端子に接続されている。

端子に接続されるとともに、右側の第2切換回路24Rの他方（右側）の入力端子に接続されている。

【0400】右側の出力アンプ22Rは、インバーダス変換機能と有する演算増幅器の電圧フォロアからなり、負極性電圧の範囲内でソース状態で動作するように構成されている。この右側の出力アンプ22Rの出力端子は、右側の第2切換回路24Rの一方（左側）の入力端子に接続されるとともに、左側の第2切換回路24Lの他方（左側）の入力端子に接続されている。

【0410】各々の第2切換回路24L、24Rは、交流化信号REVとデータ・ラッチ制御信号TPとに基づいて切換制御回路32より発生される切換制御信号SWによって切り換わるようになっている。

【0420】左側および右側の第2切換回路24L、24Rの出力端子は、それぞれ左側および右側の出力バッファ26L、26Rを介して各対応するチャネル（列）の信号線Xj、Xi+1（図1では図示せず）に電気的に接続されている。両出力バッファ26L、26Rはいし両信号線Xj、Xi+1の間には開閉スイッチ30が接続されている。

【0430】この開閉スイッチ30は、切換制御回路32より与えられた開閉制御信号SHによって開閉する。このスイッチ30が開（導通）状態になると、このスイッチ30および出力バッファ26L、26Rを介して接続する信号線Xj、Xi+1同士が電気的に短絡するようになっている。

【0440】次に、この実施例による信号線ドライバの動作を説明する。図2に、完全ドット反転を行う場合の各部の信号の波形（一例）を示す。

【0450】この信号線ドライバを含むTFT-LCDにおいては、ゲート線ドライバG1、G2、...により液晶パネル100のゲート線ドライバG1、G2、...が1フレーム期間内に通常は線順次走査で1ライン（行）ずつ選択されてアクティブ状態に駆動される。各ゲート線Yが駆動される度に、各信号線ドライバでは、各チャネルの出力バッファ26より当該ライン上の各対応する画素電極に印加すべき降調電圧Vが出力される。

【0460】いま、1行のゲート線Yiが駆動されると、交流化信号REVの論理値として、各第1切換回路14L、14Rおよび各第2切換回路24L、24Rがそれぞれ一方（左側）の入力端子に切りかわっていき、この時、第1データラッチ回路12L、12Rより、液晶パネル100内の1行j列および1行（j+1）列にそれぞれ位置する2つの画素の表示降調をそれぞれ画像データDXi、j、DXi+1,jが、第1切換回路14L、14R、第2データラッチ回路16L、16Rおよびレベルシフト18L、18Rを介して左側および右側のDAコンバータ20L、20Rにそれぞれ入力される。

【0470】これにより、左側のDAコンバータ20L

からは、画像データDXi,jの各表示降調に対応した電圧レベルを有する正極性の降調電圧Vjが出力される。一方、右側のDAコンバータ20Rからは、画像データDXi+1,jの各表示降調に対応した電圧レベルを有する負極性の降調電圧V'jが出力される。

【0480】左側のDAコンバータ20Lより出力された正極性の降調電圧Vjは、左側の出力アンプ22Lおよび第2切換回路24Lを介して左側の出力バッファ26Lよりj列の信号線Xjに出力される。一方、右側のDAコンバータ20Rより出力された負極性の降調電圧V'jは、右側の出力アンプ22Rおよび第2切換回路24Rを介して右側の出力バッファ26Rより（j+1）列の信号線Xi+1に出力される。

【0490】この際、左側の出力アンプ22Lはj列の信号線Xjを対向電極電圧VCOMに接続する中間レベル付近から正極性の降調電圧Vjまで駆動される。右側の出力アンプ22Rは（j+1）列の信号線Xi+1を中間レベル（VCOM）付近から負極性の降調電圧V'jまで駆動される。

【0500】こうして各信号線Xj、Xi+1の電位がそれぞれ所望の降調電圧Vj、V'jに達した後、所定のタイミングでゲート線ドライバG1により1行のゲート線YiがHレベルに活性化され、このゲート線Yiに接続されているi行の全てのゲートラジスタTFTi,j、TFTi,j+1、...がオン状態になる。これにより、j列の信号線Xjより正極性の降調電圧VjがゲートラジスタTFTi,jを介して1行i列の画素電極Pi,jに書き込まれ、（j+1）列の信号線Xi+1より負極性の降調電圧V'jがゲートラジスタTFTi,j+1を介して1行i列の画素電極Pi,j+1に書き込まれる。

【0510】次に、（i+1）行のゲート線Yi+1が駆動されると、その水平走査期間の開始時に交流化信号REVの論理値がLからHに反転すると同時に、データ・ラッチ制御信号TPがLレベルからHレベルに立ち上がる。

【0520】交流化信号REVの論理値がHになると、第1切換回路14L、14Rはそれぞれ他方（右側）の入力端子に切り換わる。そして、データ・ラッチ制御信号TPのHレベルの立ち上がりに応じて、左側の第1データラッチ回路12Lよりj列の信号線Xjに接続した1画素分の画像データDXi,jが右側の第1切換回路14Rを介して右側の第2データラッチ回路16Rに転送されると同時に、右側の第1データラッチ回路12Rより（j+1）列の信号線Xi+1に対応した1画素分の画像データDXi+1,jが左側の第1切換回路14Lを介して左側の第2データラッチ回路16Lに転送される。

【0530】一方、上記のようなデータ・ラッチ制御信号TPの立ち上がりと同時に、第2切換回路24L、24Rが切換制御回路32からの切換制御信号SWによ

り遅延状態になる。これにより、面出力アンパ22L、22Rは出力パッド26L、26Rないし信号線Xj、Xjhから電気的に遮断される。

【0540】この場合、データ・ラッチ制御信号TTPの立ち上がりと同時に交流化信号REVの論理値が反転しているの、上記のように第2切換回路24L、24Rが遮断状態になっている間に、開閉制御信号SHにより導通状態換制御回路32からの開閉制御信号SHにより導通状態となる。これにより、この導通状態のスイッチ30および出力パッド26L、26Rを介して相隣接する信号線Xj、Xjh同士が互いに短絡される。

【0550】前回の水平走査期間中、j列の信号線Xjは左側のDAコンバータ20Lより正極性の階調電圧Vjは左側のDAコンバータ20Lより負極性の階調電圧Vjを給電され、(j+1)列の信号線Xjhは右側のDAコンバータ20Rより負極性の階調電圧Vjhを給電される。したがって、交流化の極性反転時かつ水平走査期間の開始時に両信号線Xj、Xjhがスイッチ30を介して互いに短絡することにより、両信号線Xj、Xjh上の電位は互いに打ち消し合い、それぞれ基準レベル(VCOM)付近に平均化される。

【0560】データ・ラッチ制御信号TTPがHレベルからLレベルに立ち下がる、と左側および右側の第2データラッチ回路16L、16Rより1画面分の画像データDXih、j、DXjh、jが、それぞれ左側および右側のレベルシフト18L、18Rを介して左側および右側のDAコンバータ20L、20Rに入力される。

【0570】これにより、左側のDAコンバータ20Lからは、画像データDXih、jの表示表示階調に対応した電圧レベルを有する正極性の階調電圧Vjhが出力される。一方、右側のDAコンバータ20Rからは、画像データDXjh、jの表示表示階調に対応した電圧レベルを有する負極性の階調電圧Vjが出力される。

【0580】一方、上記のようにデータ・ラッチ制御信号TTPがHレベルからLレベルに立ち下がる時、これと同時に切換制御回路32の制御により開閉スイッチ30が開状態に切り換わり、かつ第2切換回路24L、24Rがそれぞれ他方(右側)の入力端子に切り換わる。

【0590】スイッチ30が開状態になること、第2切換回路24L、24Rがそれぞれ他方(右側)の入力端子に切り換わることで、左側の出力アンパ22Lの出力端子に切り換わることで、左側の出力アンパ22Lの出力端子に切り換わる。右側の出力アンパ22Rの出力端子は左側の第2切換回路24Lを介して左側の出力パッド26Lに接続される。

【0600】これにより、左側のDAコンバータ20Lより出力された正極性の階調電圧Vjhは、左側の出力アンパ22Lおよび右側の第2切換回路24Rを介して右側の出力パッド26Rより(j+1)列の信号線Xjhに出力され、この信号線Xjhに接続されている(j

+1)行の階調トランジスタTFTjh、jを介して対称する画素電極Phih、jに印加される。

【0610】一方、右側のDAコンバータ20Rより出力された負極性の階調電圧Vjは、右側の出力アンパ22Rおよび左側の第2切換回路24Lを介して左側の出力パッド26Lよりj列の信号線Xjに出力され、この信号線Xjに接続されている(j+1)行の階調トランジスタTFTjh、jを介して対称する画素電極Phih、jに印加される。

【0620】この場合、左側の出力アンパ22Lは(j+1)列の信号線Xjhを中間レベル(VCOM)付近から正極性の階調電圧Vjhまで駆動すればよく、右側の出力アンパ22Rはj列の信号線Xjを中間レベル(VCOM)付近から負極性の階調電圧Vjまで駆動すればよい。

【0630】こうして各信号線Xj、Xjhの電位がそれぞれ所望の階調電圧Vj、Vjhに達してから、所定のタイミングでゲート線ドライバDGにより(j+1)行のゲート線YihがHレベルに活性化され、このゲート線Yihに接続されている(j+1)行の全ての階調トランジスタTFTih、j、TFTjh、j、……がオン状態になる。これによって、j列の信号線Xjより負極性の階調電圧Vjが階調トランジスタTFTjh、jを介して(j+1)行j列の画素電極Phih、jに書き込まれ、(j+1)列の信号線Xjhより正極性の階調電圧Vjhが階調トランジスタTFTjh、jを介して(j+1)行(j+1)列の画素電極Phih、jに書き込まれる。

【0640】なお、i行のゲート線Yiが駆動される中でも、その水平走査期間の開始時に開閉制御信号SHがHレベルになっている期間中に開閉スイッチ30が導通して両信号線Xj、Xjhが互いに短絡し、上記のような両信号線Xj、Xjh間の電位の打ち消しまたは平均化が行われる。

【0650】以後、上記した2ライン分の動作が繰り返される。これにより、液晶パネル100のY方向において1画面毎に階調電圧の極性が反転する。また、X方向においても1画面毎に(各線路する2つの信号線Xj、Xjh)の間で階調電圧の極性が反転する。

【0660】なお、各切換回路14L、14R、24L、24Rは、交流化信号REVにより1フレーム毎にも切り換わる(すなわち各行のゲート線Yiが駆動される時の各切換回路14L、14R、24L、24Rの位置がフレーム毎に反転する)ように制御される。このようにフレーム毎の反転により、図11に示すようなモンテカルロ法による電圧差波形が得られる。

【0670】上記したように、本実施例による信号線ドライバでは、各線路2つのチャンネル分の駆動部において、左側のDAコンバータ20Lおよび出力アンパ22Lを正極性の階調電圧専用構成するとともに右側の

DAコンバータ20Rおよび出力アンパ22Rを負極性の階調電圧専用構成し、両DAコンバータ20L、20Rの前段に設けた第1切換回路14L、14Rと両出力アンパ22L、22Rの後段に設けた第2切換回路24L、24Rとを所定の期間たとえば1ライン周期かつ1フレーム周期で切り換えることにより、図11に示すようなモンテカルロ法と図13に示すような完全ドット反転(1画面毎の反転)とを実現している。

【0680】各出力アンパ22L、22Rは、片方の極性の階調電圧の範囲で常時シフト状態もしくはソース状態のいずれかで動作して、特に交流化の極性反転時には中間レベル(VCOM)付近から片方の極性の階調電圧まで信号線Xj、Xjhを駆動すればよく、電圧スイング幅は従来のほぼ半分であるため、消費電力が大幅に低減される。

【0690】また、駆動能力が小さく済むため、各出力アンパ22L、22Rにおいて、1チャンネル分の回路規模が小さくなるとともに、ダイナミックレンジまたはリニアリティやオフセット等の特性も向上する。

【0700】なお、交流化期間を任意に選択することが可能である。図3に、各列(Y方向)の画面に書き込む階調電圧の極性を2ライン(2水平走査期間)周期で反転させる場合の各部の信号の波形(一例)を示す。

【0710】図3に示すように、開閉制御信号SHは、交流化信号REVの論理値が反転する時にデータ・ラッチ制御信号TTPと同じタイミングで活性化する。つまり、各信号線Xj上で電圧の極性が反転する時に、開閉スイッチ30が閉じて、各線路信号線Xj、Xjh同士を短絡させる。これにより、各信号線Xjの電位は隣接の信号線の逆極性の電位と互いに打ち消し合うようにして中間レベル(VCOM)付近に平均化され、その平均レベルから所定の出力アンパ222によって逆極性の所望の階調電圧まで駆動されることになる。

【0720】なお、図2および図3では、説明と理解の便宜上、各ラインにおいてj列の信号線Xjに与えられる階調電圧と(j+1)列の信号線Xjhに与えられる階調電圧とはほぼ等しいものとして図示している。

【0730】図4に、第2切換回路24L、24Rおよび開閉スイッチ30の回路構成例を示す。この構成例では、各々の第2切換回路24L、24Rが一方のトランジスタTGa、TGbからなり、開閉スイッチ30が1個のトランジスタTGeにより1フレーム毎にも切り換わる(すなわち各行のゲート線Yiが駆動される時の各切換回路24L、14R、24L、24Rの位置がフレーム毎に反転する)ように制御される。このようにフレーム毎の反転により、図11に示すようなモンテカルロ法による電圧差波形が得られる。

【0740】切換制御信号[SWa、SWb]の論理値が[L、L]のときは、各々の第2切換回路24L、24Rにおいて左側のトランジスタTGaがオン

で、右側のトランジスタTGeがオフとなる。これにより、左側の出力アンパ22Lの出力端子は左側の第2切換回路24Lの左側トランジスタTGaを介して左側の出力パッド26Lに接続され、右側の出力アンパ22Rの出力端子は右側の第2切換回路24Rの左側トランジスタTGeを介して右側の出力パッド26Rに接続される。

【0750】反対に、切換制御信号[SWa、SWb]の論理値が[H、H]のときは、各々の第2切換回路24L、24Rにおいて左側のトランジスタTGeがオンで、右側のトランジスタTGaがオフとなる。これにより、左側の出力アンパ22Lの出力端子は右側の第2切換回路24Rの右側トランジスタTGeを介して右側の出力パッド26Rに接続され、右側の出力アンパ22Rの出力端子は左側の第2切換回路24Lの右側トランジスタTGeを介して左側の出力パッド26Lに接続される。

【0760】また、切換制御信号[SWa、SWb]の論理値が[H、L]のときは、各々の第2切換回路24L、24Rにおいて両トランジスタTGe、TGbがどちらもオフとなる。この時、両出力アンパ22L、22Rのいずれも出力パッド26L、26Rから遮断される。

【0770】定常時、開閉制御信号SHの論理値はLに保たれ、これにより開閉スイッチ28のトランジスタTGeはオフ状態に保持される。しかし、切換制御信号[SWa、SWb]の論理値が[H、L]になっている期間中、つまり第2切換回路24L、24Rが遮断状態になっている期間中に、開閉制御信号SHがHになり、開閉スイッチ30のトランジスタTGeがオン状態になる。そうすると、上記したように、このスイッチ30および出力パッド26L、26Rを介して相隣接する信号線Xj、Xjh同士が電気的に短絡することになる。

【0780】図5に、切換制御回路30の回路構成例を示す。この構成例では、交流化信号REVとデータ・ラッチ制御信号TTPとに基づいて遅延回路34、排他的OR回路36、ANDゲート38により開閉制御信号SHが生成されるとともに、この開閉制御信号SHと交流化信号REVとに基づいて反転回路42、ORゲート40およびANDゲート44によって切換制御信号SW(SWa、SWb)が生成される。

【0790】すなわち、交流化信号REVの論理値がHからLへ、またはその逆に反転した時に排他的OR回路36の出力端子に論理値Hのバース信号が得られる。このバース信号のバース幅は遅延回路34における遅延時間に相当し、普通はデータ・ラッチ制御信号TTPのバース幅よりも大きな値に選ばれてよい。

【0800】データ・ラッチ制御信号TTPは交流化信号REVに同期して与えられる。REVの論理値がLライ

ン周期で反転する場合は、これと同じタイミングでTPの論理値がHになり、ANDゲート38の出力端子にはデータ・ラッチ制御信号TPに対応した開閉制御信号SHが得られる。

【0810】交流化信号REVが論理値HからLに反転するときは、この反転時点からANDゲート44の出力つまり切換制御信号SWbがHになる。一方、REVの反転時にデータ・ラッチ制御信号TPがHレベルに立ち上ることにより、ANDゲート38の出力つまり開閉制御信号SHがHレベルとなり、この開閉制御信号SHがHレベルに高レベル化されている間はORゲート40の出力つまり切換制御信号SWaがHになる。こうして切換制御信号[SWa, SWb]の論理値が[H, L]となり、各々の第2切換回路24L, 24Rにおいて同トランスファアゲートTGA, TGBがどちらもおアブとなる。これにより、両出力アンプ22L, 22Rのいずれも出力バッド26L, 26Rから遮断される。

【0820】そして、開閉制御信号SHがHレベルであるため、開閉スイッチ30が閉じて隣合う信号線Xi, Xj+1同士が互いに短絡し、両信号線の間に逆極性の電位同士が互いに打ち消し合い平均化される。

【0830】データ・ラッチ制御信号TPがLレベルに立ち下ると、ANDゲート38の出力つまり開閉制御信号SHもLレベルに立ち下がり、開閉スイッチ30が定常時の開状態に戻る。また、開閉制御信号SHがLレベルに立ち下がることで、ORゲート40の出力つまり切換制御信号SWbがLになる。こうして、切換制御信号[SWa, SWb]が[L, L]となり、各々の第2切換回路24L, 24Rにおいて左側のトランスファアゲートTGAがおアブで、右側のトランスファアゲートTGBがおアブとなる。

【0840】交流化信号REVが論理値LからHに反転するときも、その反転時に上記と同様に第2切換回路24L, 24Rが一時的に遮断してその間に開閉スイッチ30が導通して両信号線Xi, Xj+1が互いに短絡し、その直後に各々の第2切換回路24L, 24Rにおいて左側のトランスファアゲートTGAがおアブで、右側のトランスファアゲートTGBがおオンとなる。

【0850】図6に、本発明の別の実施例による信号線ドライバの構成例を示す。この信号線ドライバでは、全30を接続し、交流化の極性反転時には全ての開閉スイッチ30を一斉に閉状態にして、全ての信号線X1, X2, ……を互いに短絡させるように構成している。この場合には、全ての信号線X1, X2, ……の間で正極性の電位と負極性の電位とが互いに打ち消し合って平均化され、各信号線X1, X2, ……の電位が中間レベルVCON付近に収束する。

【0860】さらに、この信号線ドライバでは、一端の出力バッド(OUTn)を開閉スイッチ46を介して対向電

極電圧VCONまたはこれに近い電圧を供給する電源電圧端子に接続している。この開閉スイッチ46は、全ての開閉スイッチ30が一斉に閉状態になっている期間中に、好ましくはこの期間の後部で切換制御回路32から極電圧VCONまたはこれに近い電圧が閉状態のスイッチ46および30, 30, ……を介して全ての信号線X1, X2, ……に供給される。この結果、各信号線X1, X2, ……の電位が高い精度で中間レベルVCON付近にリセットされる。

【0870】図7に、他の実施例による信号線ドライバの要部の回路構成例を示す。この信号線ドライバでは、各チャンネルの駆動部をパラレルに独立させている。したがって、図1および図6の構成例におけるような切換回路14, 24は設けられていない。ただし、各チャンネルのDAコンバータは、階調電圧発生回路28より正極性の全階調電圧V1〜V64および負極性の全階調電圧V64〜V1を受け取り、その中から1つの階調電圧を選択して出力するように動作する。また、各チャンネルの出力アンプ22は、シンクおよびソースの両機能を備え、正極性の電圧範囲と負極性の電圧範囲とで交互に動作する。

【0880】図7の構成例では隣合う一対のチャンネル間に開閉スイッチ30を接続しているが、図6と同様に全チャンネル間に開閉スイッチ30を設けてもよい。

【0890】なお、図1、図6および図7においては、20L, 20R, 20をそれぞれDAコンバータと表記しているが、これらは実質的にはデコーダ回路であり、デジタルデータアナログ電圧に変換するという意味で、DAコンバータとしている。

【0900】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の液晶ディスプレイ用信号線駆動回路によれば、コモン一定駆動法のドット反転駆動において交流化の極性反転時に隣合う信号線同士を一時的に短絡させてそれぞれの電位を互いに打ち消させて中間レベル付近に平均化し、この平均化された電位から各信号線を所望の階調電圧まで駆動するようにしたため、駆動部の負担を軽減し、消費電力を大幅に低減させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例による信号線ドライバの要部の回路構成を示すブロック図である。

【図2】実施例において完全ドット反転を行う場合の各信号線の波形(一例)を示すタイミング図である。

【図3】実施例においてY方向に2ライン置きにドット反転を行う場合の各信号線の波形(一例)を示すタイミング図である。

【図4】実施例における第2切換回路および開閉スイッチの回路構成例を示す回路図である。

【図5】実施例における切換制御回路の回路構成例を示

す回路図である。

【図6】別の実施例による信号線ドライバの回路構成を示すブロック図である。

【図7】他の実施例による信号線ドライバの要部の回路構成を示すブロック図である。

【図8】アクティブマトリクス方式のフルカラーTFT-LCDの構成を模式的に示すブロック図である。

【図9】TFT-LCDの液晶パネルの典型的な構成を示す部分断面図である。

【図10】TFT-LCDの液晶パネル内の回路構成を示す回路図である。

【図11】コモン一定駆動法による画素電極電圧および対向電極電圧の電圧波形を示す図である。

【図12】コモン反転駆動法による画素電極電圧および

対向電極電圧の電圧波形を示す図である。  
【図13】液晶ディスプレイにおける完全ドット反転のパターンを示す図である。

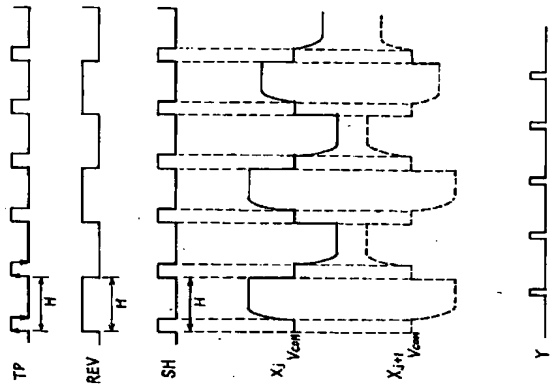
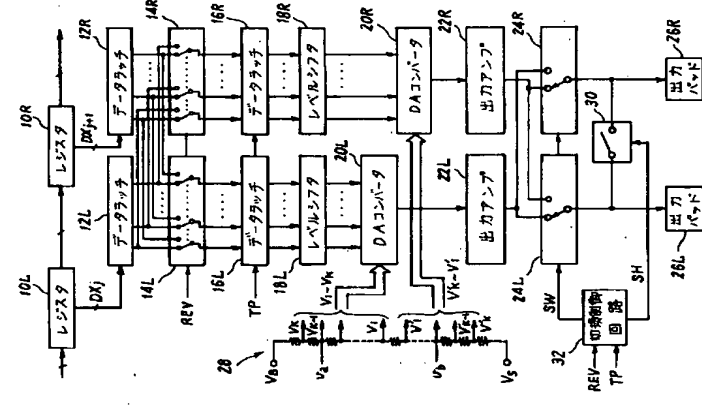
【符号の説明】

- 12, 12L, 12R 第1データラッチ回路
- 14, 14L, 14R 第1切換回路
- 16, 16L, 16R 第2データラッチ回路
- 18, 18L, 18R データシフト
- 20, 20L, 20R DAコンバータ
- 22, 22L, 22R 出力アンプ
- 24L, 24R 第2切換回路

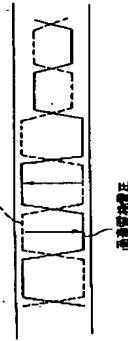
- 30 開閉スイッチ
- 32 切換制御回路
- 46 開閉スイッチ

【図1】

【図2】

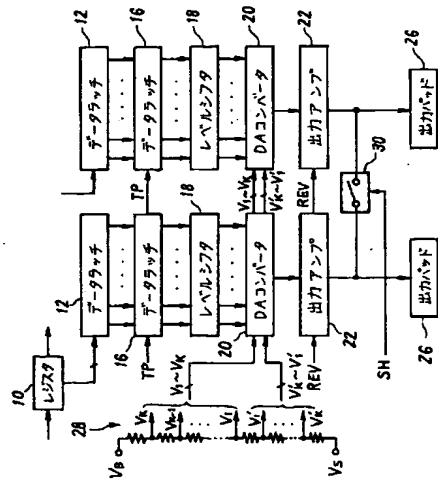


【図12】

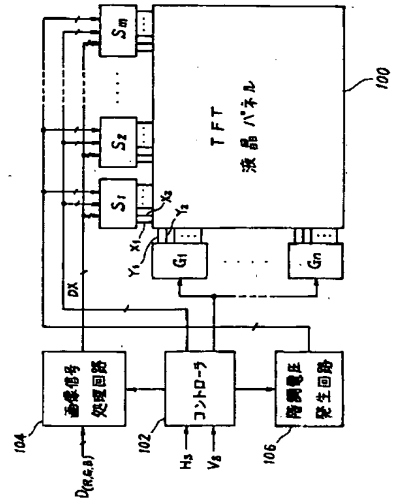




【図7】



【図8】



【図10】

